

めぐりと紫波

[Vol.55] 令和2年10月14日

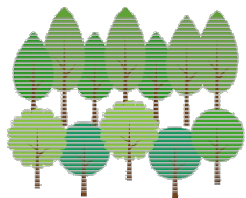
発行者 NPO法人紫波みらい研究所

TEL019-671-2244 FAX019-671-2243

E-mail miraiken@shiwa-mirai.com

紫波町では町産木材を積極的に活用することで、林業の活性化、森林の保全機能維持を図り、森林資源循環と経済的循環が両立することを目指した取り組みをしています。その取り組みのひとつとして、公共施設の木造建築を推進しています。

そして令和4年4月に開校予定の小中一貫校「紫波東学園」建設も町産木材を使うことが予定されています。そこで学校に活用される予定の木の伐採作業の様子、製材、加工までの工程を見学してきました。



紫波の森がわたしたちの学校に



●紫波町の森林から木を伐り出す

9月5日(土)、「紫波の森がわたしたちの学校に見学ツアー」は「紫波東学園」で勉強する予定の東部地区の小学生親子と町民が参加して行われました。

はじめに赤沢地区の町有林で学園に使われる予定の木を、盛岡広域森林組合によって伐採される様子を見学しました。重機を使って伐採しチェーンソーで長さを切りそろえ、運搬車で公道近くの土場で運び積み上げていきます。

参加者には特別な定規を使い測った直径を切り口に書き込む体験をしてもらいました。

伐採しても製材にむかない木材は、紫波町では(一社)紫波町農林公社のチップ工場に運ばれて木質チップに加工され、木質バイオマスとして無駄なく活用されています。



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



11 住み続けられるまちづくりを



12 つくる責任つかう責任



15 陸の豊かさを守ろう



●製材から加工（集成材）まで

滝沢市の(有)二和木材へ移動し、製材の工程を見学しました。運び込まれた木材を乾燥し、皮をむいて板状に製材していきます。製材の時に出る「オガクズ」は木質ペレットの原料としてこちらも無駄なく使用されています。

製材した木材は接着剤で組み合わせて強度や品質を安定させ集成材に加工します。今回は葛巻町の(有)高吟製材所を見学しました。製材された板を天日乾燥⇒乾燥室で人工乾燥⇒無駄なく板を使うための縦継ぎ加工⇒接着剤を塗布して重ね合わせる⇒熱と圧力をかける⇒巾・厚さ・長さを整える、と多くの工程を経て出荷されます。



●参加者から感想を聞きました

- <小学生> ・新しい学校がどんな木を使って造られるのを見ることができてよかった。
- ・私たちが学ぶ場所にたくさんの人が係わってくれていることを知った。
- <保護者> ・町産木材が使われることで安心感が持てる。
- ・長く大切に使用していきたい。

※今回の見学ツアーは「令和2年度県民参加の森林づくり促進事業」の支援を受けて実施しました。

これまでの主な取り組み【町内のおもな木造施設】

- 平成13年度 紫波中央駅待合施設
- 14年度 えこ3センター（1次発酵棟）
- 15年度 上平沢小学校校舎
虹の保育園
- 17年度 環境循環PRセンター
- 18年度 星山小学校校舎
- 22年度 古館コミュニティーセンター
- 23年度 長岡小学校屋内体育館
- 24年度 オガールプラザ
- 26年度 オガールベース
- 27年度 役場新庁舎



めぐりと紫波は、紫波町産業部環境課の委託で発行しています。